

学校法人熊本学園

第2次中期経営計画（2021～2025年度）

中間見直し後 改定版

I. 第2次中期経営計画の修正について	1
1. 修正のポイント	1
2. 検討体制	1
II. 第2次中期経営計画の構造	1
III. 建学の精神	2
IV. 使命	2
V. 将来像	3
VI. 将来像の達成指標（KGI：重要目標達成指標）	3
VII. 行動指針	4
VIII. 中期計画	4
1. 中期計画の概要	4
2. 各戦略目標について	5
3. KPI（重要業績評価指標）	6
IX. 行動計画	8
1. 熊本学園大学	8
2. 熊本学園大学附属高校・中学校	14
3. 熊本学園大学附属敬愛幼稚園	17
4. 法人部門	19

I. 第2次中期経営計画の修正について

1. 修正のポイント

令和3(2021)年4月より運用を開始している学校法人熊本学園第2次中期経営計画(2021~2025)については、計画運用3年目において見直しを実施することとしておりました。この度、過去2か年の実施状況及び目標の達成状況等を振り返り、環境の変化を勘案して以下のとおり見直しを行い、計画を修正いたしました。(修正内容の詳細は、別紙「学校法人熊本学園第2次中期経営計画の修正について」を参照)

(1) 将来像~行動計画の各レベルに掲げた目標値の相関性の点検を行う

- ・将来像、戦略・戦略目標は原則的には修正を行わない
- ・主にKGI(重要目標達成指標)とKPI(重要業績達成指標)の点検を行う
- ・KGIは、修正を行う場合はその必要性を十分に検討する
- ・KPIは、KGIとの相関性の検証を踏まえ修正を行う

(2) 行動指針、各部門の目標の点検とそれを踏まえた行動計画の修正を行う

- ・行動指針は、修正の必要性の検討を踏まえ、浸透を図る策を併せて検討する
- ・各部門の目標は、修正の必要性の検討を踏まえ、浸透を図る策を併せて検討する
- ・行動計画の修正の際に、行動指針及び各部門の目標を十分に留意する

(3) KPIとの接続性及び2年間の実績等を踏まえた行動計画の修正を行う

- ・KPIの目標値に最大限作用する行動計画となるよう留意した修正を行う
- ・戦略目標と照らし2年間の実績に基づき、必要に応じて施策等の入れ替え等を行う

2. 検討体制

(1) 中期経営計画推進管理本部にて協議し、修正計画案の作成を進める

(2) 中期経営計画推進管理本部下に原案を作成する作業部会を編成する

(3) 必要に応じてプロジェクトチーム等を編成する

(4) 検討する過程においては多くの教職員が関わる体制とする

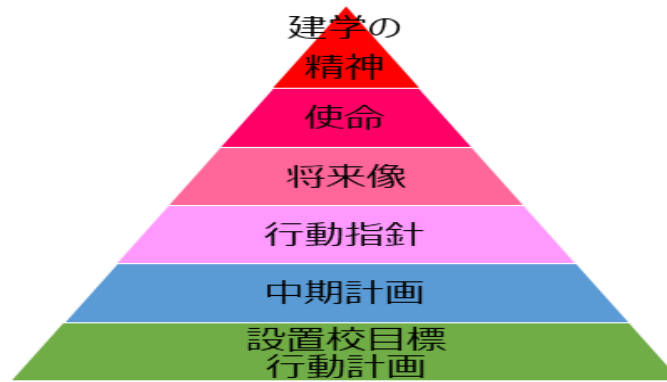
II. 第2次中期経営計画の構造

建学の精神や学園の使命を果たすため、第2次計画ではまず2025年度に学園が達成すべき将来像を設定し、その達成のために必要なことを検討するビジョン先行型の視点に立って検討を行った。

第2次計画では第1次計画で定めた熊本学園の使命を引き継いでいる。その使命を果たすために、まず、第2次計画が実施される5年間において目指すべき指針となる「学校法人熊本学園 第2次中期経営計画における将来像」を策定した。

将来像を達成するために、「行動指針」として本学園及び教職員が経営や業務遂行にあたり取るべき姿勢を示し、「中期計画」として将来像達成のために実施する施策の指針を示した。

それらを踏まえ、各設置校において具体的な行動の目標となる「設置校目標」を立て、「行動計画」を策定した。



【建学の精神】創設の根底にあたる人材育成や学園のあり方などの理念、気概を謳ったもの

【使命】本学園が社会に対して果たすべき役割

【将来像】本学園が5年後にあるべき姿

【行動指針】将来像を達成するために守るべき本学園の姿勢、価値観、教職員の行動指針

【中期計画】将来像を達成するための施策を大綱化したもの

【設置校目標・行動計画】各設置校で実行する具体的な施策の計画

Ⅲ. 建学の精神

師弟同行 自由闊達 全学一家

「師弟同行」「自由闊達」は、東洋語学専門学校第1期生園田四郎氏が、第1回入学式で「『師弟同行』『自由闊達』の学風を樹立せんことを期す」との宣誓文を朗読されたことに始まります。

i. 師弟同行

開学時、教師と学生が一緒になって校舎の土地を開墾・開拓したことに由来するもので、教師と学生は同じ人間として規範を一つにして学ぶことを意味します。

ii. 自由闊達

全構成員がのびやかで自由な雰囲気の中、教育と勉学に勤しみ、研究に励み、明朗闊達で自由な創造的人間を目指すものを意味します。

iii. 全学一家

熊本学園創立者高橋守雄先生が、熊本商科大学第1回入学式で「すべては『全学一家』と云う標語があらわす通りこの教育の城を護る教職員学生の一体的な努力であった」と唱えられたように、教職員学生一体の学風を意味します。

Ⅳ. 使命

熊本学園は、学生・生徒・園児と教職員が心をひとつにして共に学び、
 広い教養、高い倫理性、そして自らの将来を切り拓く行動力を備え、
 幅広い視野で地域社会を牽引する指導的人物を養成する

V. 将来像

学校法人熊本学園は、1942年の創立以来脈々と受け継がれてきた建学の精神（「師弟同行」「自由闊達」「全学一家」）を基調としながら、今後の予測困難な時代を生き抜いていくため、地域に根差した教育機関として地域と世界をつなぎ、グローバル時代に求められる人材を養成し、創造的研究の推進によって社会の発展に貢献する。

また、地域に存立する教育機関として、進取の気性をもって地方創生を牽引し、持続可能な地域振興を推進する。

- (1) 学生・生徒・園児の夢の実現を支援し、時代の荒波をたくましく乗り切る有為な人材を輩出する学園

伝統ある総合学園として、多様な文化と価値観を尊重し、予測困難な時代に高い志を持って立ち向かう指導的人物を養成する。

- (2) 創造的研究に積極的に取り組み、社会の発展を支える知の拠点となる学園

研究の自主性を尊重し、多様で独創的・革新的な研究に取り組むことで、社会の課題解決を積極的に支援することにより、知の拠点をめざす。

- (3) 持続可能な地域社会の発展に貢献する地域の拠点となる学園

地域の広範な年齢層に学びの機会や施設等を提供するとともに、教育研究の成果を地域社会に積極的に還元することにより、地域と世界をつなぐ地域の拠点をめざす。

- (4) 将来にわたって永続的に発展し続ける学園

2042年に迎える創立100周年を通過点ととらえ、その後も永続的に発展を続ける学園となるため、高度な教育研究及び社会貢献活動を推進していく上での基礎となる、安定した経営基盤を確立する。

VI. 将来像の達成指標（KGI：重要目標達成指標）

- (1) 学生・生徒・園児の夢の実現を支援し、時代の荒波をたくましく乗り切る有為な人材を輩出する学園

- ①収容定員の確保
- ②学生・生徒・園児（保護者）満足度 80%以上

- (2) 創造的研究に積極的に取り組み、社会の発展を支える知の拠点となる学園

- ③科学研究費等競争的資金新規獲得件数 15件
- ④共同研究・受託研究等の実施件数 10件

- (3) 持続可能な地域社会の発展に貢献する地域の拠点となる学園

- ⑤地域貢献指標 全項目達成
 - ・地域住民の参加可能イベントの実施件数 40件
 - ・公開講座等受講者数 1,500人 満足度 90%
 - ・社会人学生受け入れ数（正課・科目等）100人
 - ・協定に基づいた地域連携事業等実施件数 20件
 - ・ボランティア活動実施件数 50件

(4) 将来にわたって永続的に発展し続ける学園

⑥学校法人 経常収支差額比率 5.0%

VII. 行動指針

学生・生徒・園児第一主義

何事も全て、「学生・生徒・園児のために」を第一に考え、行動する

地域への貢献

地域のために、地域に寄り添い、地域を想い行動する

進取の気性

グローバルな視野を持ち、常に知識を磨き、積極的に新しい物事に挑戦する

VIII. 中期計画

1. 中期計画の概要

熊本学園が抱える課題や取り巻く環境を踏まえ、まず、将来像を達成するために充実すべき機能及び戦略目標を検討し、その後の戦略立案の基礎となる「基本戦略」を策定した。常任理事会より「基本戦略」を学園内に示した上で、本学園が有する資源をどのように活用するかを検討し、戦略目標を達成するための具体的な戦略を設定した。本学園では、この「基本戦略」及び戦略目標を達成するための戦略を総称して「中期計画」としている。

中期計画		
基本戦略		戦略
分野	戦略目標	戦略
I 広報・募集	選ばれる学園であるための積極的な広報及び募集活動	①地域における学びと課題解決の拠点としての学園の積極的なPRの展開 ②地域や志願者層ごとの動向に応じた募集活動の展開
II 教育	学生・生徒・園児第一主義の教育の推進	①教育の質の向上に向けた実効性のある質保証サイクルの運用 ②入学後の教育課程へのスムーズな移行のための取組みの強化 ③教育課程の弾力的な運用 ④地域社会と連携した実践的な教育の推進と教育方法の改善
III 就職・進路 ・留学 ・学生等支援	個別最適化した学生等支援・キャリア教育の推進	①学生等への細やかな支援と支援環境の整備 ②様々な学生等が活躍できる場の提供とその活躍を支援する環境整備 ③地域の産業界や卒業生と連携したキャリア教育の実施
IV 研究	研究の高度化と研究機関としての存在感の向上	①研究の高度化 ②研究情報の発信と地域との接続性の強化
V 学外連携	地域における連携強化と学園資源の積極的活用	①地域のニーズに応じた学園資源の活用 ②協定団体との連携活動の推進
VI 人と組織	人が成長しそれを活かせる組織	①能力の向上と教職協働推進のための様々な仕組みの構築 ②すべての教職員が活躍する働きやすい組織作り
VII 財務・施設設備	経営基盤の安定と強化	①ガバナンスの強化 ②財務基盤の向上 ③施設設備の充実

策定に際しては、本学園を取り巻く環境について整理を行った。Society5.0などの社会環境の変化、教育改革、東京一極集中是正政策による人口動態の変化、志願者層の多様化、高等学校新学習指導要領の開始などを熊本学園にとっての発展の機会として捉える一方、少子化及び人口減少、新型コロナウイルス感染症拡大を契機とした経済状況の悪化、地方国立大学の定員増などを経営上の脅威として認識している。

これに対し、熊本学園は、歴史と伝統により培ってきた熊本県内におけるブランド力や、社会で活躍する多くの卒業生、充実した学生等支援制度、地域との強い連携、大学教員の幅広い研究力等の強みを有している。これらの資源を活用することで、機会を活かし、また課題を克服することで学園の発展を図る。

学園の強みのPRに一層力を入れ、また、大学が有する研究力を積極的に活用することで、熊本学園のさらなるイメージアップと、研究機関としての存在感の向上を図りたい。

中期計画のもと、各設置校及び法人部門はこの方針に沿って、行動計画を策定している。

2. 各戦略目標について

I. 広報・募集「選ばれる学園であるための戦略的な広報及び募集活動」

18歳以下の若年層の人口減が進み、各設置校における学生・生徒・園児確保の環境は一層厳しくなる中、志願者層、保護者、学校に対して学園の魅力を確実に伝える必要がある。教育や研究、課外活動や地域との連携活動など、学園の活動が広く社会に認知されることで、志願者層等に対しても魅力ある学園としての認識の浸透を図る。併せて、募集活動を展開することで、選ばれる学園としての好循環を生み出すPR活動が必要と考える。

II. 教育「学生・生徒・園児第一主義の教育の推進」

基本方針にある「学生・生徒・園児第一主義」の教育を推進する。また、学園の将来像（1）「時代の荒波をたくましく乗り切る有為な人材を輩出する学園」とあり、社会が急激に変化する時代においても、活躍するために必要な力を身につけ、社会に貢献できる人材を育成する。

III. 就職・進路・留学・学生等支援「個別最適化した学生等支援・キャリア教育の推進」

学園の将来像（3）「持続可能な地域社会の発展に貢献する地域の拠点となる学園」には、「教育研究の成果を地域社会に積極的に還元する」とあり、教育の成果たる学生・生徒・園児には、本学園を卒業した後に進むコミュニティでも十分に活躍できるよう、進路を踏まえた指導を行うことが重要である。また、社会の先の見通しが困難であることを考えると、一人ひとりに寄り添った支援をより一層進める必要がある。

IV. 研究「研究の高度化と研究機関としての存在感の向上」

学園の将来像（2）「創造的研究に積極的に取り組み、社会の発展を支える「知の拠点」となる学園」が目指すことを、『教員の研究意欲の向上や研究環境の充実を基盤とした、熊本学園ならではの特色のある研究を展開し、地域のシンクタンク機能として存在感を放つこと』とした。その上で、社会との連携体制をより一層整備することで、存在感の向上を目指す。

V. 学外連携「地域における連携強化と学園資源の積極的活用」

学園の将来像（3）「持続可能な地域社会の発展に貢献する地域の拠点となる学園」にあるとおり、地域の人々に学びの機会等を提供し、「教育研究の成果を地域社会に積極的に還元する」ことを、『社会に対して学園が貢献できる取組み等を社会に示し、地域との連携を強化し知的資源の提供を促進すること』と考える。地域の人々が、学園の知的資源と触れる機会を多く設けられるよう、体制を強化することを目指す。

VI. 人と組織「人が成長しそれを活かせる組織」

学園の将来像（4）「将来にわたって永続的に発展し続ける学園」であるためには、社会をリードし、変化に対応し続けることができる組織であることが必要であると考え。教職員それぞれが為す

べきことを認識、共有し、知識を磨きつづけることに加え、人を活かす組織をつくることが重要であると考えます。

Ⅶ. 財務、施設設備「経営基盤の安定と強化」

学園の将来像（４）「将来にわたって永続的に発展し続ける学園」に示されるとおり、永続的な発展のために必要なことを、『今後、度々社会状況が変化することがあっても、学園の事業継続や発展に支障のない財務基盤』と考える。予測困難な未来に柔軟に対応するために必要な柔軟性と進取の気性を持った教職員と組織、いかなる場合でも盤石に事業継続ができる財務基盤を併せ持つことが重要であると考えます。

施設設備を含めた資産・資源の有効活用も経営基盤の大きな要因と考える。

3. K P I（重要業績評価指標）

I. 広報・募集「選ばれる学園であるための戦略的な広報及び募集活動」

- ・入学定員の確保
 - ・大学 一般選抜志願倍率 2.0 倍
 - ・大学 年内入試志願者数 合計 850 人
 - ・高校 入試志願倍率 1.2 倍
 - ・中学校 入試志願倍率 1.5 倍
 - ・オープンキャンパス等参加者数 大学 2,300 人 高校 2,200 人 中学校 400 人
 - ・幼稚園 入園説明会等参加者数 25 人
- ・大学 日経 BP ブランドイメージ（総合：教職員）ブランド偏差値 50

II. 教育「学生・生徒・園児第一主義の教育の推進」

- ・大学 授業評価アンケート「受講してよかった」90%以上
- ・大学 私立大学等改革総合支援事業タイプ1 得点率 75%以上
- ・高校 学校評価アンケート「親切で指導に情熱が感じられる」85%
- ・中学校 学校評価アンケート「授業は丁寧でわかりやすいか」90%
- ・幼稚園 保護者における満足度 97%以上

III. 就職・進路・留学・学生等支援「個別最適化した学生等支援・キャリア教育の推進」

- ・大学 実就職率 85%以上
- ・大学 学生満足度（キャンパスライフ）80%
 - ・卒業時アンケート（学生生活に対する支援）肯定的回答 80%以上
 - ・卒業時アンケート（就職支援・キャリア支援）肯定的回答 80%以上
 - ・卒業時アンケート（その他の施設・設備）肯定的回答 80%以上
- ・高校・中学校 生徒満足度（学校生活分野）90%
 - ・高校 学校評価アンケート「充実した学校生活を送っている」90%以上
 - ・中学校 学校評価アンケート「充実した学校生活を送っていますか」90%以上
- ・大学 年間退学率 2.5%以下
 - ・休学者数（留学等を除く）60 人以下

- ・高校 年間転学率 2.0%以下
- ・中学校 年間転学率 2.5%以下

IV. 研究「研究の高度化と研究機関としての存在感の向上」

- ・科学研究費等競争的資金申請数 40 件
 - ・募集情報提供件数 60 件
- ・共同研究・受託研究等の申込件数 10 件
- ・日経 BP ブランドイメージ「地域産業に貢献している」10 位（九州地区参加大学）

V. 学外連携「地域における連携強化と学園資源の積極的活用」

- ・地域住民の参加可能イベントの実施件数 40 件
- ・公開講座等受講者数 1,500 人 満足度 90%
- ・協定に基づいた地域連携事業等実施件数 20 件
- ・社会人学生受け入れ数（正課・科目等）100 人
- ・ボランティア活動実施件数 50 件

VI. 人と組織「人が成長しそれを活かせる組織」

- ・人件費比率 56%
 - ・職員の労働意識に係るアンケート「働きがい」についての肯定的回答 80%
- ・教員・職員研修参加率
 - ・大学 FD・SD 100%
 - ・高校・中学校 100%

VII. 財務、施設設備「経営基盤の安定と強化」

- ・教育活動収入 6,827 百万円
 - ・学生生徒等納付金収入 5,052 百万円
 - ・経常費等補助金 1,355 百万円
 - ・付随事業収入 116 百万円
- ・教育活動外収入 40 百万円
- ・人件費（退職金関連を除く） 3,704 百万円以下
- ・管理経費支出 497 百万円以下

Ⅷ. 行動計画

1. 熊本学園大学

目標

1. 学生第一主義に基づく教育を実践する大学
2. 社会の発展を支える知と地の拠点大学

「学生第一主義」を徹底し、学生が自らの成長を実感できるよう、教育内容の充実・教育環境の向上を図り、学生の満足度を最大化する。

国内外で評価される研究や突出した地域研究による研究成果の高度化、そして、研究成果を積極的に還元し社会の発展を支えることで存在感を発揮する。

これらの活動を通して、在学生やその保護者、卒業生、志願者をはじめとした、社会の様々な人々から期待され、選ばれる大学になる。

I. 広報・募集

【戦略目標】 選ばれる学園であるための積極的な広報及び募集活動

戦略① 地域における学びと課題解決の拠点としての学園の積極的な PR の展開

施策	大学公式 SNS、マスコミを使った情報発信
取組	・ 大学公式 SNS を使った情報の発信 ・ 熊本県外での新聞や TV を使った広報展開 ・ マスコミを使った情報発信
期待する成果	熊本県内では存在感を、熊本県外では認知度を高める

施策	学生生活、教育活動と研究活動の情報発信
取組	・ 大学公式サイトの充実 ・ 学内情報の収集と共有
期待する成果	大学の教育活動、研究活動を積極的に発信し、期待度を高める

施策	入学志願者層等に向けた広報展開
取組	・ ターゲットを絞った広告の展開 ・ 入試課と連携した広報展開
期待する成果	志願者予備群、保護者、高校教員における認知度の向上

戦略② 地域や志願者層ごとの動向に応じた募集活動の展開

施策	学生募集活動
取組	・ 高校向け募集活動（生徒・教員・保護者） ・ 県外向け募集活動 ・ 高大連携による募集活動
期待する成果	既存層の効果的確保と新規層の獲得

II. 教育

【戦略目標】 学生・生徒・園児第一主義の教育の推進

戦略① 教育の質の向上に向けた実効性のある質保証サイクルの運用

施 策	実効性のある教育力向上のための仕組の整備
取 組	・ 内部質保証体制の再整備 ・ 教育活動への学生の参画促進
期待する成果	教育の質の向上

施 策	授業改善の仕組みの整備
取 組	・ ティーチングポートフォリオの導入 ・ アクティブラーニングの推進
期待する成果	教育の質の向上

施 策	カリキュラムの体系化
取 組	・ 科目ナンバリングの実施
期待する成果	教育の質の向上

施 策	学修成果の可視化と点検、検証
取 組	・ アセスメントプランの策定 ・ 学修ポートフォリオの全学的な導入 ・ アンケート結果の効果的な利用
期待する成果	教育の質の向上

戦略② 入学後の教育課程へのスムーズな移行のための取組みの強化

施 策	大学での学びへの導入
取 組	・ 入学前教育の全学的実施 ・ 初年次教育の充実
期待する成果	学習意欲の向上と休退学の減少

戦略③ 教育課程の弾力的な運用

施 策	学部横断カリキュラムの弾力的活用
取 組	・ 他学部他学科制度による学部横断プログラムの充実
期待する成果	学位横断プログラムによる新たな学びの実現

施 策	学部再編と大学院再編
取 組	・ あらたな社会ニーズに対応した学部再編、複数研究科の統合の実現
期待する成果	新たな学びの実現、新たな志願者の獲得

施 策	全学共通教育の充実のための課題検討
取 組	・全学共通教育の充実のための課題とその解決の在り方を検討
期待する成果	全学共通教育推進による大学の魅力の増加

戦略④ 地域社会と連携した実践的な教育の推進と教育方法の改善

施 策	地域社会と連携した実践的な教育
取 組	・クマガク地域リーダー育成プログラムの推進
期待する成果	地域リーダーとなる人材の育成

施 策	オープンな教育リソースの提供
取 組	・教育リソース活用のための教材の作成
期待する成果	教育力と社会貢献力の向上

III. 就職・進路・留学・学生等支援

【戦略目標】 個別最適化した学生等支援・キャリア教育の推進

戦略① 学生等への細やかな支援と支援環境の整備

施 策	成績不振による奨学金の廃止を回避し、退学を防ぐために面談を実施する
取 組	・日本学生支援機構貸与・給付奨学生（極少単位者）への面談 ・日本学生支援機構奨学金貸与・給付者（警告者）への面談
期待する成果	奨学金の廃止を回避することで、除籍、退学を防止し、退学率を低減させる

施 策	退学防止の取り組み
取 組	・大学で独自に設定をした、成績不振学生の抽出及び面談の実施 ・退学防止のための面談記録の共有と活用
期待する成果	休学者数 60 人以下

施 策	インクルーシブ学生支援センターの相談支援体制の強化
取 組	・インクルーシブ学生支援センタースタッフ SD ・本学におけるしょうがい学生の修学支援のあり方 ・インクルーシブ学生支援センター利用学生の実態調査
期待する成果	多様な問題を抱える学生の総合的なサポートの実現、中退予防

施 策	ICT ピアサポーターの養成
取 組	・授業アシスタントの向上 ・ICT コンシェルジュの養成
期待する成果	学生相互の ICT 利用支援環境の構築

施 策	細やかな就職支援
取 組	・初年次からのキャリア支援の実施
期待する成果	学生生活や将来の進路に対する方向付け及び、就業イメージの促進

施 策	細やかな就職支援
取 組	・3年生全員面談
期待する成果	学生一人一人に合った細やかな支援の実施

戦略② 様々な学生等が活躍できる場の提供とその活躍を支援する環境整備

施 策	しょうがい等のある学生への充実した支援
取 組	・インクルーシブ学生支援センター支援プログラム
期待する成果	しょうがい等のある学生の学生生活の満足度や適応度を高める。 中退予防

施 策	様々な分野で活躍している学生を SNS で発信する
取 組	・Instagram「KUMAGAKU スポーツ」の運営 ・Youtube で体育系以外のサークルの動画を配信する
期待する成果	学生の満足度向上及び、地域・保護者・高校生へのイメージの向上

施 策	熊本学園大学留学プログラムの充実
取 組	・留学プログラムの実施
期待する成果	留学前後の学生の満足度の向上

施 策	外国人留学生招致及び留学生と本学学生との交流を通じた異文化交流の推進
取 組	・大学間交流協定に基づく交換留学生の招聘 ・外国人留学生訪問・研修団の受入れ（オンラインを含む）
期待する成果	交換留学から大学院正規課程留学への呼び込み効果の増大 短期（訪問・研修）留学から長期交換留学への呼び込み効果の増大

施 策	外国人留学生を通じた異文化交流・多文化共生の発信
取 組	・外国人留学生弁論大会の実施
期待する成果	国際交流分野のブランドイメージの定着化 異文化交流・多文化共生の機会の地域への提供

戦略③ 地域の産業界や卒業生と連携したキャリア教育の実施

施 策	地域の産業界と連携したインターンシップの実施
取 組	・充実したインターンシップの実施
期待する成果	学生の就業意識の向上 地域の産業界との関係性の深化

施 策	地域の産業・経済界や卒業生とのさらなる接点創出によるキャリア支援の推進
取 組	・地域産業・経済界による業界研究会の実施
期待する成果	将来のキャリアイメージの容易化、就職活動の選択肢増加及び志望動機の深堀

IV. 研究

【戦略目標】 研究の高度化と研究機関としての存在感の向上

戦略① 研究の高度化

施 策	科研費申請の促進
取 組	・科研費申請に向けた支援体制の充実
期待する成果	科研費申請の促進

施 策	国際的研究の促進
取 組	・国際ジャーナルへの投稿を促進
期待する成果	国際的な研究の推進

施 策	研究活動の促進
取 組	・研究体制の再構築 ・高度学術研究プロジェクトの推進 ・研究自己点検・評価制度の構築
期待する成果	研究活動の推進

施 策	電子資料の整備
取 組	・電子資料を充実させ、学外からのアクセスも可能にする
期待する成果	研究環境の構築による教員の満足度の向上

戦略② 研究情報の発信と地域との接続性の強化

施 策	研究情報の集約・発信
取 組	・研究情報・活動の情報発信 ・研究者情報発信の充実
期待する成果	研究機関としての存在感の向上

V. 学外連携

【戦略目標】 地域における連携強化と学園資源の積極的活用

戦略① 地域のニーズに応じた学園資源の活用

施 策	公開講座の充実
取 組	・公開講座の実施回数及び受講者数の増加
期待する成果	地域に対する多様な「知」の提供

施 策	リカレント教育の促進
取 組	・公開講座参加者へ、社会人学生（正課・科目等）としての入学案内
期待する成果	正課の社会人学生、科目等履修生などの、社会人学生の増加

施 策	履修証明プログラムの開始
取 組	・履修証明プログラムを開始し、社会人受講生の増加を目指す
期待する成果	正課の社会人学生の増加

施 策	履修証明プログラムの開始
取 組	・大学院において、履修証明プログラムの導入を検討する
期待する成果	社会人学生の増加

施 策	ボランティア活動の実施
取 組	・地域におけるボランティア活動の実施
期待する成果	地域における課題解決の促進

戦略② 協定団体との連携活動の推進

施 策	協定団体との連携事業の企画、実施
取 組	・協定機関との連携事業の見直し（需要の掘り起こし）
期待する成果	協定機関との共催事業、受託事業等の増加による地域貢献活動の増加

施 策	大学コンソーシアム熊本実施事業の推進
取 組	<ul style="list-style-type: none"> ・高等教育機関の教育・研究の充実のための基盤整備への協力 ・地域の行政や産業界との連携 ・地域社会の教育・文化の向上・発展への協力 ・教育環境の向上に向けた取り組みへの参加
期待する成果	地域における大学資源の活用促進

2. 熊本学園大学付属高等学校・中学校

高等学校 目標

1. 生徒の誓いに基づく令和の時代における特色ある教育の実現
2. 入学生を安定的に確保し、質の高い教育を実現するための学校運営

民主的で文化的な社会の指導者の育成を目指す。社会の発展のため「英知」を磨き、あたたかく謙虚な心を持ち、互いを認め合う「気品」を高め、たくましい心と体を培い、勇気を持って行動する「剛気」を育てる教育の実現を目指す。そのため、生徒および教員の評価システムを構築し、教育内容及び教育方法の充実、ICT 教育環境の向上をはかる。人間力を高める深学科プログラムの発展と効果の検証に取り組む。

中学校 目標

1. 生徒の誓いに基づく令和の時代における特色ある教育の実現
2. 入学生を安定的に確保し、質の高い教育を実現するための学校運営

中高一貫コースで学ぶ学付の『深学』とは、予見のできない時代を“生き抜く”力を身につけていく学びである。『深学科プログラム』のさらなる発展と拡がりを検討する。6年間を通して、学力の充実を目指す『2+3+1プログラム』は、この10年間を振り返り、点検、改善に取り組んでいく。魅力ある学校づくりに励み、志願者の増加を目指していく。

I. 広報・募集

【戦略目標】 選ばれる学園であるための積極的な広報及び募集活動

戦略① 地域における学びと課題解決の拠点としての学園の積極的な PR の展開

施 策	情報発信のツール開発および実施
取 組	・ HP の充実、校外説明会対応 ・ 社会的な課題、SDGs に取り組み課題解決を目指す
期待する成果	付属中学校・付属高校の一層のイメージ向上

戦略② 地域や志願者層ごとの動向に応じた募集活動の展開

施 策	入試制度や募集方法などの再検討
取 組	・ スポーツ専願入試制度の検証 ・ 中高一貫コースのあり方の対応の検討
期待する成果	スポーツ専願入試制度、中高一貫コースのあり方の改善、週5日制導入とそれに付随する中高一貫制度のあり方検討

II. 教育

【戦略目標】 学生・生徒・園児第一主義の教育の推進

戦略① 教育の質の向上に向けた実効性のある質保証サイクルの運用

施 策	教科内での情報共有、校内での情報共有及び、教育の質向上に向けた教員募集における採用活動の充実
取 組	・ 教育課程及び教育方法研究、取組における研修機能の強化 ・ 他校での実践や研究成果の紹介および教職員の研修 ・ 生徒一人一台のパソコンの導入 ・ 教員採用における意識改革と積極的な採用手法の構築
期待する成果	組織内の情報共有・意思疎通の向上による、生徒・保護者・教職員間での信頼感の向上

戦略② 入学後の教育課程へのスムーズな移行のための取組みの強化

施 策	入学後におけるスムーズな学校生活の移行のための行事の充実
取 組	<ul style="list-style-type: none"> ・高等学校 スプリングキャンプ ・中学校 入学オリエンテーション ・高等学校 学習方法ガイダンス
期待する成果	スクールアイデンティティに沿った生徒の育成

戦略③ 教育課程の弾力的な運用

施 策	生徒の進路保障ができるカリキュラム
取 組	・新学習指導要領に則ったカリキュラム作成
期待する成果	生徒の様々な進路に対する保障

III. 就職・進路・留学・学生等支援

【戦略目標】 個別最適化した学生等支援・キャリア教育の推進

戦略① 学生等への細やかな支援と支援環境の整備

施 策	深学科プログラム（深プロ）の充実
取 組	<ul style="list-style-type: none"> ・深学科プログラム（深プロ）の職員研修 ・大学教育の基礎力となる知識・技能や思考力、判断力、表現力等を問う問題に対応
期待する成果	生徒の計画性、企画・立案力、コミュニケーション能力の育成

施 策	特別支援教育について
取 組	・不登校及び特別支援への対応
期待する成果	特別支援について、専門的な意見や対応について検討

戦略② 様々な学生等が活躍できる場の提供とその活躍を支援する環境整備

施 策	特別支援資格取得者増に向けた制度整備
取 組	・特別支援の資格取得のための制度整備
期待する成果	特別支援に関する適切な対応による教職員の負担を軽減と、生徒保護者の満足度の向上

施 策	研修会や講演会への参加
取 組	・生徒の研究会や発表会
期待する成果	生徒や教職員の積極的に参加する姿勢の向上

戦略③ 地域の産業界や卒業生と連携したキャリア教育の実施

施 策	生徒の主体性を育てる
取 組	・主体性を育てる研修会
期待する成果	受け身でない、主体的学修者の育成

V. 学外連携

【戦略目標】 地域における連携強化と学園資源の積極的活用

戦略① 地域のニーズに応じた学園資源の活用

施 策	学外活動へのサポート
取 組	・熊本市との関係部署との協力
期待する成果	熊本市をはじめ、周囲の団体との連携の強化

3. 熊本学園大学付属敬愛幼稚園

目標

1. 建学の精神に基づく社会的ニーズに沿った質の高い教育の実現
2. 変動する時代に対応した幼稚園運営

創設者の思いを継承し、時代の変化に対応しながら、「子どもにとってより良い幼児教育」とは何かを問える教師像を目指し、教育者の資質向上に努める。また、「少子化」・「幼児教育・保育の無償化」・「待機児童解消」など子どもを取り巻く環境の目まぐるしい変化を踏まえ、現代社会が求めている幼稚園像を見極めながら、理想の幼児教育が継承できるように努める。

I. 広報・募集

【戦略目標】 選ばれる学園であるための積極的な広報及び募集活動

戦略① 地域における学びと課題解決の拠点としての学園の積極的な PR の展開

施 策	HP の充実や SNS を活用した情報発信
取 組	・ HP や SNS を使った積極的な情報発信の実施
期待する成果	熊本での認知度向上

戦略② 地域や志願者層ごとの動向に応じた募集活動の展開

施 策	入園希望者への積極的なアプローチ
取 組	・ 説明会開催や個別対応 地域向けの子育て支援活動の実施
期待する成果	入園希望者数の増加

施 策	大学施設を活用した取組み
取 組	・ 産業資料館を活用したワークショップ等の実施
期待する成果	地域における幼稚園としての存在感の向上

II. 教育

【戦略目標】 学生・生徒・園児第一主義の教育の推進

戦略① 教育の質の向上に向けた実効性のある質保証サイクルの運用

施 策	発達専門機関との連携
取 組	・ 発達専門機関の訪問支援事業等の連携を実施
期待する成果	子どもの成長発達の促進

戦略② 入学後の教育課程へのスムーズな移行のための取組みの強化

施 策	保護者連携の積極的な推進と子どもの成長へのアプローチ
取 組	・ 保護者への個別相談の継続的な実施
期待する成果	子どもの成長発達の促進、保護者からの信頼の向上、保護者満足度が向上

戦略③ 教育課程の弾力的な運用

施 策	園内研修のさらなる充実
取 組	・ 園内研修の継続的な実施
期待する成果	教育課程作成、「教育教本」の作成、敬愛幼稚園の教育の継承

4. 法人部門

目標

1. 建学の精神を堅持し、地域に根差した私立学校としての使命の遂行

2. 急速な社会の変化に対応し学園の永続的な発展を実現するため、安定した経営の基盤を構築

創立以来の伝統を踏まえつつ、建学の精神に基づく人材の育成、教育・研究成果の還元をとおして、私立の教育機関としての使命・役割を果たすことにより、地域社会の持続的な発展に貢献する。

目まぐるしい社会の変化に対応し、学園の永続的な発展のため、ガバナンスの一層の強化を図り、安定した経営の基盤を構築する。

VI. 人と組織

【戦略目標】 人が成長しそれを活かせる組織

戦略① 能力の向上と教職協働推進のための様々な仕組みの構築

施策	人事制度の整備及び事務組織の強化
取組	・職員の能力を向上させる仕組みの構築 ・教職員に求められる資質の向上
期待する成果	教職員の意欲向上、能力向上、組織力向上

戦略② すべての教職員が活躍する働きやすい組織づくり

施策	働き方改革への対応
取組	・魅力ある職場づくり ・多様で柔軟な働き方の実現
期待する成果	教職員の心身の健康保持増進と職場の生産性向上

施策	教職員が心身の健康を保つための仕組みの強化
取組	・「こんにちは、保健室です。」(血管年齢・足指力測定事業) ・自分の健康を振り返る個別相談会(保健指導)
期待する成果	教職員の健康維持。困った時の相談場所の構築

VII. 財務、施設設備

【戦略目標】 経営基盤の安定と強化

戦略① ガバナンスの強化

施策	ガバナンス強化のための環境整備
取組	・ガバナンス強化のための制度整備 ・ガバナンス・コード点検評価 ・ボード・ディベロップメントの実施
期待する成果	法人運営に係る経営力の向上、学校法人及び学校の経営に関する資質向上

戦略② 財務基盤の向上

施 策	安定した収入確保と支出削減
取 組	<ul style="list-style-type: none"> ・教育活動収入の安定的な確保 ・収益事業収入の確保と事業拡大の検討 ・コスト構造の再構築による支出削減
期待する成果	経常収支差額比率の改善

施 策	補助金収入の確保
取 組	<ul style="list-style-type: none"> ・経常的な学校運営に係る補助金申請 ・特別な学校運営に係る補助金申請
期待する成果	経常収支差額比率の改善

施 策	寄付金制度の充実
取 組	・学生支援、教育・研究支援、施設設備整備等に関する寄付金の拡充
期待する成果	経常収支差額比率の改善

施 策	同窓会との連携
取 組	・同窓会志文会、同窓会紫紺会による支援の強化（援助金の拡充を含む）
期待する成果	同窓会と学生生徒との交流による学校生活や進路への支援。援助金の拡充。

戦略③ 施設設備の充実

施 策	施設設備の計画的実行と学園資産の運用管理
取 組	<ul style="list-style-type: none"> ・施設設備計画に沿った教育研究施設等の整備 ・学園資産の運用管理
期待する成果	教育研究の質の保証と学生・生徒・園児の学園生活の充実に向けた施設整備、安心安全な環境整備